

# News Letter

Number 22

## 日本獣医解剖学会報

September 1st, 2003

### 自己説明責任

会長 山田純三(帯広畜産大学)

定年を2年後に控えた老体が、本学会の会長に選ばれたことを、自分としてどう捉えてよいか、困惑しました。と申しますのは、獣医学科の統合再編の夢破れ、失望し、定年までの2年はのんびりと過ごさせてもらおうと、身辺整理をしなから身勝手に考えていた矢先のことでした。前会長の林先生は東大の農学部長を始めとして数々の要職を務められた方でしたが、私のような馬齢を重ねただけの田舎侍に、この大切な時期の会長が務まるか全く自信などありませんでした。そうこうしている間に、私が恐れていたことが早々に襲ってきて、会長としていやおう無しに対応せざるを得なくなりました。

この春以降、5月に全国大学獣医学関係者代表者会議カリキュラム担当の局博一先生(東大教授)から新カリキュラムの提案があり、さらに7月には、文科省が開催している「国立大学における獣医学教育の改善に関する協議会」に唐木先生から以下のような資料が提出されました。唐木先生の資料では「解剖学は生理学、病理学、薬理学、微生物学、実験動物学、毒性学、生理化学、伝染病学、放射線学、寄生虫学と同じく教授1、助教1、助手1の合計3名」となっています。そこで、会長の立場で、前者のカリキュラムは教官組織やシラバスが不明の段階ではコメントできないという趣旨の返事を出し、後者の案では獣医解剖学は改善ではなく改悪になる、という趣旨の文書を唐木先生へ送りました(林先生も協議会の中で同じ趣旨の発言をされています)。唐木先生からは「これはあくまでも案であるし、解剖の教育義務が重いことは理解している。何とかして今よりよい教育が全体的に出来る環境を作りたいので、他分野が理解してくれるような案を作り、しっかり主張してほしい。」との趣旨の返事をいただきました。統合再編時は限られたパイで可能な最大限の教育効果が出来るようにするためにパイの取り合いになるわけですから、他分野の人たちを、「なるほど」と納得させる科学的資料に基づき具体案を提出しなければ、改悪を容認せざるを得なくなります。このことが、表題の自己説明責任なのです。

法人化後の大学では、解剖学のような基礎分野では大学内からはもとより、地域や産業界さらには国の担当部局などからの資金獲得が非常に困難になることは目に見えています。私達はこれまで獣医学教育の最初の専門科目としてしっかりした教育をしなければならぬことを肝に銘じて教育の改善に、教科書や参考書の発刊などで、学会としても鋭意取り組んで来ました。この厳しい環境下で教育の改善は大命題であります。しかし、先徳国と比較して、私達の教育義務の大変さ、教育実態の貧困さは獣医学科内でさえも十分に理解されておられません。このままでは責任ある教育はもとより、その教育を支える研究などとても出来ない状況なることは明白です。私達は将来の獣医学徒のために、私達が行おうとする獣医解剖学教育をしっかりと提示し、これを行うためにこれだけの教官が必要だ、と明確かつ強く主張しなければ展望は見えてこないでしょう。これにはしっかりした戦略が必要です。私達が主張しなければ誰も代弁してくれないことなのです。

そこで、先日役員会を開催し、これらの諸問題に対して学会として意見をまとめ、それを関係機関に提出すべく行動を開始することを確認致しました。青森での総会で執行部としての基本的な考えを提示したいと思っております。皆さんも上記の問題について真剣にご検討いただき、総会の席で大いに議論し、しっかりした基本構想と戦略を構築いたしましょう。最後にもう一度、これは私達の自己説明責任なのです。それとも、座して展望の無い未来を甘受しますか？

また、役員会では我々の学会の活性化のために、総会にいくつかの提案をすべく準備をしております。皆さんからも積極的なご提案を歓迎いたします。

微力ながら、会長として老体に鞭打ち、学会の発展のために、獣医解剖学教育の改善のために、私の最後のエネルギーを使わせていただきます。私たち皆の獣医解剖学会です。ご協力とご支援をお願いいたします。

(平成15年8月25日記)

### ◇ 第136回 日本獣医学会 ◇

(2003年10月3日～5日)

会場：青森文化会館、ホテル青森、青森県農業共済会館

### ワークショップ

#### <臨床に必要な解剖学—臨床医の視点から—>

10月4日(土) 10:30-12:00 第3会場(青森市文化会館4F 中会議室)

コーディネーター・座長：武藤順一郎(北里大学)、浅利将男(麻布大学)

WS9-1 獣医学教育で試みられる臨床解剖学講義 浅利将男(麻布大・解剖学第一)

WS9-2 皮膚形成を成功させるための解剖学 中島尚志(下館動物病院)

WS9-3 小動物整形外科手術と機能解剖学 陰山敏昭(麻布大・外科第二)

WS9-4 前庭疾患を診断するための神経解剖学—この病変でこんな症状—齋藤弥代子(麻布大・外科第二)

#### <第13回 獣医解剖サテライトフォーラム>

10月5日(日曜日) 14:30-16:00 第3会場(青森市文化会館)

座長：池田輝雄(麻布大学・獣医学部)

1. 多機能分子アクチンがマスト細胞で果たす役割 舟場正幸(麻布大)

2. TGF-βによるTristetraprolinの転写調節機構 小川健司(理化学研究所)

### <一般講演>

#### A. 日本獣医解剖学会

口頭発表

10月4日(土) 第3会場

演題番号 A-1-24 (9:00-10:20, 13:00-15:40)

9:00-9:20 浅利昌男(麻布大学)

A-1 イスにおける鎖骨の存在意義 ○藤井崇文、保坂善真、植田弘美、竹花一成(酪農学園大・獣医解剖)

A-2 ウミ猫における懸架装置の形態学および生化学的研究 ○秋山由美(酪農学園大・獣医解剖)

9:20-9:40 尼崎 肇(日本獣医畜産大学)

A-3 ラット胎盤におけるNO産生とNOSアイソフォームの発現—スピントラップ・EPR法を用いた解析— ○滝沢達也1、吉川 宏2、田中和明1、森田英利2(1麻布大・動物工学、2麻布大・食品科学)

A-4 F344/Nラットの生殖加齢特性2 ○田中 慎、山本-澤村貴子(長寿研)

9:40-10:00 九郎九正道(東京大学)

A-5 キタオボッサム(Didelphis virginiana)子宮におけるガストリン放出ペプチド(GRP)の免疫組織化学的局在 ○熊野 篤1、W. J. Krause2、佐々木基樹1、北村延夫1、山田純三1(1帯広大、2ミズーリ大医学部)

A-6 マウス卵子の受精および胚発生過程におけるPI3K/Akt経路の関与 ○松本浩道、星野由美、佐々木比呂志、佐藤英明(東北大院・農・動物生殖) 10:00-10:20 真鍋 昇(京都大学)

A-7 ウマ浅指屈筋腱と総指伸筋腱の形態学および生化学的性状の比較 ○山本悦子1、Helen L. Birch2、Allen E. Goodship2、渡辺敬文1、保坂善真1、植田弘美1、竹花一成1(1酪農学園大・獣医解剖、2The Royal Veterinary College・Veterinary Basic Science)

A-8 ウマ浅指屈筋腱の部位差について ○瀬瀬 賢、渡辺敬文、山本悦子、保坂善真、植田弘美、竹花一成(酪農学園大・獣医解剖) 13:00-13:20 山野秀二(日本獣医畜産大学)

A-9 ウマ浅指屈筋腱炎におけるマトリックスメタロプロテアーゼ活性 山本悦子、○渡辺敬文、保坂善真、植田弘美、竹花一成(酪農学園大・獣医解剖)

A-10 シバヤギの耳道腺上皮における糖質組織化学的研究 ○安井 禎1、月瀬 東1、Wilfried Meyer2(1日大・獣医解剖、2Hannover 獣医大) 13:20-13:40 月瀬 東(日本大学)

A-11 ネコの腺外分泌部におけるレクチン組織化学的研究 ○神谷新司、大坪千尋、下條博美、伊豆弥生、添田 聡、山野秀二(日獣大・獣医解剖)

A-12 大腸癌性乳房炎に伴う乳腺上皮細胞の機能の解析 ○本多正史1、麻生 久1、北澤春樹2、岡田洋之3、斎藤忠夫2、熊谷勝男4、山口高弘1(1東北大院・農・機能形態、2東北大院・農・動物資源、3酪農学園大・獣医病理、4ティール研究所)

13:40-14:00 北川 浩 (神戸大学)

A-13 マウス乳腺におけるPSPの局在に関する免疫組織化学的研究 田畑智射1、○松元光春1、岡 達三2、Jaragara Bayin3、矢吹 映1、鈴木秀作1 (1鹿児島大・家畜解剖学、2鹿児島大・家畜生理学、3内蒙古農業大)

A-14 冬眠下のゴールデンハムスターにおける精巣組織の形態変化 ○佐藤 剛、立和名剛司、石井万幾、木村政治、高田佳寿子、中村龍介、金井亮晃、九郎丸正道、林 良博 (東京大・農学生命・獣医解剖)

14:00-14:20 竹花一成 (酪農学園大学)

A-15 胎生期のDES曝露が生後の精子形成に及ぼす影響 ○小林徹央、山本雅子、有嶋和義 (麻布大 解剖第二)

A-16 胎生期のDES曝露が生後の精巣上皮に及ぼす影響 ○小原進也、山本雅子、有嶋和義 (麻布大 解剖第二)

14:20-14:40 山本雅子 (麻布大学)

A-17 マウス精巣におけるProtein Gene Product 9.5 (PGP9.5)の発現 ○昆 泰寛1、遠藤大二2、岩永敏彦3、今野明弘1、橋本善春1 (1北大院・獣医解剖、2酪農大・獣医放射線、3北大院・医解剖)

A-18 シンバギの精囊腺上皮における複合糖質の組織細胞化学的研究 ○坂入旭、月瀬 東 (日大・獣医解剖)

14:40-15:00 谷口和之 (岩手大学)

A-19 出生前のPCBs投与が雄ラット精巣機能に及ぼす影響 ○山本雅子、白井明志、赤堀文昭、有嶋和義 (麻布大・解剖第二)

A-20 ヒトの染色体におけるrRNA遺伝子座の多型 ○小川純子、篠原美央、太田池恵、柴田秀史、神田尚俊 (農工大・家畜解剖)

15:00-15:20 上原正人 (鳥取大学)

A-21 ウマ臍細胞の培養系の確立 ○市毛洋子 (酪農学園大・獣医解剖)

A-22 マウスの周生期における造血部位の移行に関する組織学的観察 ○多田達哉、Diah Tri Widayati、福田勝洋 (名大院・生命農学)

15:20-15:40 福田勝洋 (名古屋大学)

A-23 ラット骨髄における赤血球形成へのエリスロポエチンによる調節機構 ○横山俊史1、江藤貴雄2、湯地みどり2、陳 慶義2、塚原伸治2、河南保幸2、北川 浩2 (1神戸大・バイオシグナル研究センター、2神戸大・自然科学)

A-24 遺伝性腎疾患 (ICGN) マウスにおける腎性貧血症発症の機序 ○山田一山口美鈴1、眞鍋 昇1、後藤康文1、森 俊治1、坂田千夏1、阿南小有里1、永尾雅哉2、小倉淳郎3、山本美江4、宮本 元1 (1京大院・農生体機構、2京大院・生命科学、3理研・バイオリソースセンター、4感染研・獣医科学)

10月5日(日)第3会場  
演題番号 A-25-47 (9:00-14:10)

9:00-9:20 山口高弘 (東北大学)

A-25 遺伝性腎疾患 (ICGN) マウスの腎糸球体における血管成長調節因子の関与 ○坂田千夏 (京大・生体機構学)

A-26 伝性腎疾患マウスにおけるアクアポリン1および4の局在異常 ○森 俊治1、眞鍋 昇1、山田一山口美鈴1、後藤康文1、坂田千夏1、阿南小有里1、小倉淳郎2、山本美江3、宮本 元1 (1京大院・農生体機構、2理研・バイオリソースセンター、3感染研・獣医科学)

9:20-9:40 橋本善春 (北海道大学)

A-27 腎組織構造の死後変化に対するマイクロウェーブ照射固定の効果 ○矢吹映、松元光春、鈴木秀作 (鹿児島大・家畜解剖)

A-28 臍組織の取込み能について ○保坂善真、山本悦子、植田弘美、竹花一成 (酪農学園大・獣医解剖)

9:40-10:00 萬場光一 (山口大学)

A-29 イヌ膝関節における前十字靭帯と外側側副靭帯の構造的差異 ○松川拓也1、山本悦子1、保坂善真1、植田弘美1、中村邦男2、竹花一成1 (1酪農学園大・獣医解剖、2酪農学園大・食品物性)

A-30 ミニブタ膝滑膜の微細構造と複合糖質の局在 ○永濱 陽、月瀬 東 (日大・獣医解剖)

10:00-10:20 山田純三 (帯広大学)

A-31 ラット小腸の絨毛円柱上皮細胞による特異抗体を介した粒子状物のパーソープーション ○湯地みどり1、藤本真人1、陳 慶義1、横山俊史2、塚原伸治1、河南保幸1、北川 浩1 (1神戸大・自然科学、2神戸大・バイオシグナル研究センター)

A-32 ウシ空腸および回腸における $\delta$  T細胞の個体発生 1. その局在と変動 ○小河大輔1、保田昌宏1、那須哲夫1、山口高弘2、村上隆之1 (1宮崎大・家畜解剖、2東北大院農・機能形態学)

10:20-10:30 休憩

10:30-10:50 佐藤英明 (東北大学)

A-33 ラット小腸絨毛円柱上皮細胞におけるアポトーシスの進行調節への上皮内リンパ球の関与 ○北川 浩1、三留麻希子1、湯地みどり1、陳 慶義1、横山俊史2、塚原伸治1、河南保幸1 (1神戸大・自然科学、2神戸大・バイオシグナル研究センター)

A-34 プタ卵胞の顆粒層細胞アポトーシスを抑制する細胞内因子 (c-FLIP) について ○眞鍋 昇、松井俊勝、後藤康文、井上直子、中川真輔、前田晃史、宮本元 (京大院・農生体機構)

10:50-11:10 内藤順平 (帝京科学大学)

A-35 生後初期におけるラット終脳外側中隔のアポトーシス発現細胞数の経時的

変動と性差 ○井波広一、塚原伸治、北川 浩、河南保幸 (神戸大・自然科学)

A-36 顔面神経核からの各顔面筋への投射様式に関する検討 (ラットとウサギの比較) ○古谷 泉1、杉田昭榮2、北 一郎3 (1都立大・院・理、2宇都宮大・農・機能形態、3都立大・院・理)

11:10-11:30 佐々木文彦 (大阪府立大学)

A-37 新規抗IA-2 $\beta$ モノクローナル抗体を用いたIA-2 $\beta$ アイソフォームの発見 ○川上登美子、竹山夏実、佐伯圭一、松本芳嗣、小野寺節 (東大・院農・応用免疫)

A-38 マウス神経内分泌細胞におけるIA-2 $\beta$ の特異的発現 ○竹山夏実、川上登美子、佐伯圭一、松本芳嗣、小野寺節 (東大・院農・応用免疫)

11:30-11:50 昆 泰寛 (北海道大学)

A-39 The influence of hypothalamo-pituitary-adrenal gland axis in mice after exposure with formaldehyde and toluene ○Sari Dwikesumal、桑原佐知1、塚本康浩1、樺田尚樹2、嵐谷奎一2、藤巻秀和3、佐々木文彦1 (1大阪府大・獣医解剖、2産業医科大、3国立環境研)

A-40 ラットの喉頭におけるvanilloid receptor subtype 1およびvanilloid receptor like protein 1の分布 ○山本欣郎、谷口和之 (岩手大・獣医解剖)

13:00-13:20 柴田秀史 (農工大)

A-41 ウシとウマの頸動脈小体における神経分布の免疫組織化学的研究 ○内山知征、北村延夫、佐々木基樹、山田純三 (帯広大)

A-42 ラット頸動脈小体におけるKir4.1の局在 ○石川亮太、山本欣郎、谷口和之 (岩手大・獣医解剖)

13:20-13:40 鈴木秀作 (鹿児島大学)

A-43 硬膜上怪網を欠くマメジカの脳への動脈分布 ○福田勝洋1、大類健史1、佐々木基樹2、木村順平3、遠藤秀紀4、Dahlan Bin Ismail5、工藤 博6 (1名大・院・生命農、2帯広畜産大学畜産学部、3日本大学生物資源科学部、4国立科学博物館動物研究部、5Universiti Putra Malaysia、6国際農業研究センター)

A-44 イヌの混濁を呈した角膜の形態学および生化学的解析 ○廣岡雅満1、五十嵐治2、山本悦子1、保坂善真1、植田弘美1、竹花一成1 (1酪農学園大・獣医解剖、2釧路動物病院)

13:40-14:00 杉田昭榮 (宇都宮大学)

A-45 亜鉛欠乏マウス有乳頭部の味蕾細胞の変化 ○荒井理恵1、尼崎 肇1、市原伸恒2、浅利昌男2、山野秀二1 (1日獣大・解剖、2麻布大・解剖第一)

A-46 マツカワの嗅覚器における感覚細胞の分化 ○森 命1、山本欣郎1、天野勝文2、山森邦夫2、山野目健3、谷口和之1 (1岩手大・獣医解剖、2北里大・水産・魚類生理学、3岩手県水産技術センター)

14:00-14:10 武藤順一郎 (北里大学)

A-47 腫瘍細胞における細胞接着分子ゲセリンの役割 ○塚本康浩、佐々木文彦 (大阪府大・獣医解剖)

ポスターセッション  
10月3日(金)ポスター会場  
演題番号 AP-1-20

AP-1 Effects of mono(2-ethylhexyl)phthalate on prepubertal rat testes in vitro ○Andriana Bibin Bintang、Tay Tat Wei、Tachiwana Tsuyoshi、Ishii Maki、Sato Takeshi、Awal Mohammad Abdul、Kanai Yoshiakira、Kurohmaru Masamichi、Hayashi Yoshihiro (東京大・農学生命・獣医解剖)

AP-2 Chronic effects of mono(2-ethylhexyl) phthalate (MEHP) on testes of prepubertal SD rats ○Tat Wei Tay、Andriana Bibin Bintang、Ishii Maki、Matsui Toshiyasu、Sato Takeshi、Matoba Shogo、Tachiwana Tsuyoshi、Kanai Yoshiakira、Kurohmaru Masamichi、Hayashi Yoshihiro (東京大・農学生命・獣医解剖)

AP-3 Expression pattern of UCH isozymes in spermatogenesis of mice ○権仲基1、王 玉来2、小坂 仁3、李 元雨3、石井寿幸1、久和 茂1、和田圭司2、吉川泰弘1 (1東大獣医実動、2国立精神神経センター、3国立感染研・霊長類センター)

AP-4 水牛の精巣におけるステロイド合成酵素および性ステロイドホルモン受容体の免疫組織化学的局在 ○Maria Bella Cruzanal、佐々木基樹1、Teguh Budipitojol、Grace deOcampo2、坪田敏男3、北村延夫1、山田純三1 (1帯広大・家畜解剖、2フィリピン大、3岐阜大)

AP-5 ヒラオヤモリ *Cosymbotus platyurus* の嗅覚系におけるGタンパクサブタイプGoおよびGi2の発現に関する研究 ○大塚裕忠1、添田 聡1、斎藤 徹2、神谷新司1、山野秀二1、谷口和之3 (1日獣大・解剖、2日獣大・実験動物、3岩手大・解剖)

AP-6 亜鉛欠乏マウスの成長変化 ○尼崎 肇、荒井理恵、山野秀二 (日獣大・解剖)

AP-7 骨端軟骨板吸収面におけるNestin陽性細胞に関する研究 ○添田 聡1、伊豆弥生1、神谷新司1、斎藤 徹2、谷口和之3、山野秀二1 (1日獣大・解剖、2日獣大・実験動物、3岩手大・解剖)

AP-8 クロミンクジラ *Balaenoptera bonaerensis* の橈骨の骨形成過程におけるVI型コラーゲンの発現に関する研究 ○伊豆弥生1、添田 聡1、石川 創2、神谷新司1、斎藤 徹3、山野秀二1 (1日獣大・解剖、2日本鯨類研究所、3日獣大・実験動物)

AP-9 犬の骨格筋におけるCA-III蛋白の局在 ○金原 零1、合田麻衣1、村山智美1、加世田美伶1、市原伸恒1、尼崎 肇3、西田利聰2、浅利昌男1 (1麻布大・解剖一、2麻布大・生理一、3日獣大・獣医解剖)

- AP-10 ウサギ小腸の粘膜上皮における糖鎖発現の部位的相違 ○竹内崇師、吾郷昭夫、権田辰夫（鳥根医科大・動物実験施設）
- AP-11 ウシの近位回腸パイエル板リンパ濾胞の免疫組織学的観察  
○藤野資子、保田昌宏、那須哲夫、村上隆之（宮崎大・家畜解剖）
- AP-12 マウス肝臓におけるアクチビンβEサブユニットの局在性 ○宇城有紀1、橋本 統1、山口 修1、関 真知1、吉岡一機2、木崎景一郎3、星 信彦1、長谷川喜久1（1北里大・実験動物、2北里大・獣医解剖、3北里大・獣医薬理）
- AP-13 鶏坐骨神経の発生および再生における細胞接着分子 gicerin の関与 ○広井 聡、佐々木文彦、塚本康浩（大阪府大院・解剖）
- AP-14 ウシの延髄におけるカルシトニン遺伝子関連ペプチド（CGRP）神経の免疫組織化学的研究 ○岡地 深、北村延夫、佐々木基樹、山田純三（帯広大・家畜解剖）
- AP-15 鳩における外側中隔核と間脳との線維連絡 ○阿閉泰郎（岐阜大・獣医解剖学）
- AP-16 シンパギ網膜の各領域における神経節細胞分布について ○宋井里依、青山真人、杉田昭栄（宇都宮大院・機能形態）
- AP-17 ニワトリ Glycogen Body に対するグルタミン酸の作用 ○今川智敏、松本さやか、上原正人（鳥取大・家畜解剖）
- AP-18 ニワトリ下垂体前葉の濾胞星細胞におけるグリア成長因子の影響 ○小野高宏、中島仁志、Claudius Luziga、萬場光一（山口大・院連獣）
- AP-19 TRH 投与ラットにおける甲状腺濾胞上皮細胞の形態学的研究 ○辻尾祐志、桑田 愛、川野雅也、吉岡一機、谷口和美、大野秀樹、武藤順一郎（北里大・獣医解剖）
- AP-20 ウシ子宮内膜におけるガストリン放出ペプチド（GRP）をコーディングしている cDNA のクローニング ○Teguh Budipitoloj, Maria Bella C. Cruzanal, 佐々木基樹1、松崎重範2、岩永敏彦3、北村延夫1、山田純三1（1帯広大・家畜解剖、2ジェネティクス北海道、3北大院）
- 10月4日（土）ポスター会場  
演題番号 AP-21
- AP-21 ニワトリにおける消化管壁内神経系の免疫組織化学的研究  
○福元 豊、大森保成、福田勝洋（名大・動物形態）
- \*\*\*\*\*

## 【日本獣医解剖学会奨励賞公募】

対象学会：第136回日本獣医学会  
と き：2003.10.3-10.5；と ころ：青森市民文化会館（担当、北里大学獣医解剖学講座）

応募資格：1）35歳未満の者。但し、留学生はこの限りではない。2）日本獣医解剖学会の会員で、すでに2年以上の会員歴を有し、筆頭者としてその回を含めて2回以上発表経験のある者。3）奨励賞応募を希望される方は、下記の連絡先に講演要旨および対象者である旨を明記した用紙（略歴、入会年月日を含む）を送って下さい。

〆 切：2003.9.5

連絡先：〒034-8628 十和田市東2番町35-1、北里大学獣医学産学部、獣医解剖学講座 武藤順一郎（電話：0176-24-9431、Fax：0176-23-8703、E-mail：mutoh@vmas.kitasato-u.ac.jp）

\*\*\*\*\*

## 【日本獣医解剖学会理事会】

日本獣医解剖学会理事会 10月4日（土）12:00-13:00  
共済会館4F特別会議室（特4会場）理事の先生方は時間厳守でお集まりください。

## 【日本獣医解剖学会総会】時間厳守で御参集！

日本獣医解剖学会総会 10月5日（日）16:00-16:30

議題（理事会と総会とは同じ議題について審議します。）

- 1) 統合再編後の獣医解剖学教育組織について  
（基本的には、肉眼解剖学と臨床解剖学を主に教育する講座と組織学、細胞生物学および発生学を主に教育する講座の2講座体制を要求する。講座名に解剖学の名前にはこだわらない。これら教科目のシラバスを作成する。欧米の獣医解剖学教育実態を調査して、これらの要求の根拠を明示する。）
  - 2) 学会の活性化について  
（次の3点を提案します。a）奨励賞に学部生部門を新設する。b）従来の奨励賞の学会の会員資格2年を1年に短縮し、より多くの会員にチャンスを与える。以上については奨励賞選考規定を改正する。c）筆頭で発表する学生の学会参加費を学会で援助する。）
  - 3) その他
- 報告
- 1) 全国大学獣医学関係者代表者会議カリキュラム担当の局博一先生（東大教授）から新カリキュラムの提案に対する対応
  - 2) 「国立大学における獣医学教育の改善に関する協議会」に提出された唐木先生の資料に対する対応

- 3) 第137回獣医学会について
- 4) その他

\*\*\*\*\*

## 【獣医解剖学会懇親会】

期日：10月5日（日）、午後6:00～；場所：海福閣（かいふくかく） 〒039-3501 青森市浅虫蛸谷31 電話 017-752-4411；会費：懇親会+宿泊費+入浴代 ⇒ 17,000円 懇親会のみ参加費 ⇒ 6,000円（懇親会のみ参加の方は青森市内《学会会場》と送迎バスで往復できます）

なお、浅虫は温泉、水族館や海釣り公園など日常のストレスからのリフレッシュにも有効な施設もありますので、ご家族で楽しむことができます。ご同伴も歓迎します。懇親会に参加される方は、同封はがきに「例」の要領で必要事項をご記入頂き9月5日（金）までに、ご返送下さい。eメール（mutoh@vmas.kitasato-u.ac.jp）でも受け付けます。不参加の場合でもその旨ご返送頂けると、確認作業が容易になりますので、ご協力をお願いします。

\*\*\*\*\*

## ◎ 日本獣医解剖学会奨励賞第10号 ◎

昨年9月、東京大学で開催された第135回日本獣医学会での学会発表において山田、林、谷口の3名の選考委員で慎重に審査の結果、下記のとおり決定されましたのでご案内します。（総会の席で表彰予定です）

受賞者：酪農学園大学 獣医解剖学 助手 保坂 善真 先生  
受賞対象演題：腱炎における腫瘍壊死因子（TNF）αの関与  
保坂先生、おめでとうございます！今後のご発展を期待します。

\*\*\*\*\*

## 獣医解剖学会の会員の皆様へのご挨拶 —獣医解剖学教室を去るにあたって—

林 良博

来る8月1日、わたしは東京大学大学院農学生命科学研究科の獣医学専攻・獣医解剖学教室から農学国際専攻・国際動物資源科学研究室に移動します。これは、去る3月31日に前任の教授がご退官になられたことに伴って後任教授の公募がおこなわれましたので、以下に述べます理由から応募することを決意し、幸いにも7月末の教授会で選考されたことによるものです。すでにわたしの移動についてご存知の先生もおられるかと存じますが、多くの先生方はつい先日まで獣医解剖学会の会長であった者が、定年でもないのに「解剖学」を冠した研究室を離れることに奇異な感じを持たれたのではないかと思います、筆をとった次第です。

60歳であった東大の定年が3年に1年ずつ延長し、わたしが定年時には63歳に達します。しかし本件が全学的に決定された2年前に学部長であったわたしは、このような「タナボタ」式定年延長を何もしないで見過ごすことはできないと考え、60歳での再任制度を提案し、本研究科教授会で可決されました。したがって本研究科の教員は、あくまで60歳をひとつの区切りと考えて、身の振り方を考えております。60歳まで残すところ3年となったわたしにとって、学部長職を終えた4月は、懸案であった大腸ポリプを切除すること、今後の身の振り方をじっくりと考えるために最適な時期でありました。少し大切に育てすぎたポリプには癌細胞が発見されましたが、幸いにも粘膜内に留まっており、転移の恐れはありませんのでご安心下さい。

ある時期の獣医解剖学にとって、わたしが東京大学の獣医解剖学教室の教授であったことは、ある種の役割を担ったのではないかと密かに自負しております。しかし学部長を終えて教室に帰り、じっくりと考えてみた結果、すでに獣医解剖学教室の教授としてのわたしの使命は終わっていると感じました。わたしが教授であることは、49のプラスがあったとしても、それを上回る51のマイナスがあると悟った次第です。49のプラスには、わたしの欲の少なさも含まれています。7月18日に85歳の誕生日を迎えた南アフリカのマンデラ前大統領が「役目は終わったし、影響力もない。いまや過去の人だ。でもそれでいいのだ」と語った彼の心境をわたしはよく理解できます。わたしを含む研究者の多くは自分の名前を残そうとし、その結果、しばしば「子どものような利己主義者」として振る舞うことがあります（例えば海外調査に行くと、研究者は幼い子どもが玩具を取り合うように、研究材料を奪い合う。わたしには苦手なことです）。しかしそれはそれで長所でもあります。教育者や技術者のように、ひとつひとつの行為が目に見える形

